

磐城時報

第一廿一日
日刊
石城郡磐城町十四
番地
電話
印刷
發行
代價
廣告
訂費
零售
本報
社址
電話
印刷
發行
代價
廣告
訂費
零售
本報
社址
電話

御大葬當日の 遙拜方法決定す

二月七日最寄小學校其他で 石城郡町村長會で決議

二十日、二十一日兩日開催した石城郡町村長會では来る二月七日、大行天皇御大葬當日石城郡民全部をして遙拜せしむ可く具體的方法を協議したが、當日二月七日午後六時御靈柩が宮城を御發引の時刻に夫々一期喪明の二月十四日午前九時

中等校設置に 奔走する古川縣議

舊菊田校が不用になったのを機とし 教育調査會で熟議中

植田町及び錦、山田兩村組合立ないでゐる結局當分は補習學校菊田高等小學校は錦村ではすて存置した上で組合の區域に校舍の増築完成し山田村は工を擴張舊菊田二町八ヶ村を打費一萬三千圓を以て六教室の増つて一九として教育調査會を設築が来る三月までに竣工すべく研究熟議の上石城の郡南に中植田町では工費八萬餘圓を以て學校を設くるか農學校とするか小學校の移轉新築を議決する等を決定したいと縣議古川傳一氏いよゝ同組合は来る四月の等は主張奔走してゐる。

町村長會の 決議事項

石城郡町村長總會は二十日午後一時から元石城郡衙に開き二十一日午前十時から更に引續いて開催したが、小名濱町長提出に

湯本の暴行者 七名は收容

組合では批判演說會 檢事一行が實地檢證

昨報湯本町字裏町日本坑夫組合支部を襲つた外臺ノ山クラブ等交々立つて熱辯を揮つたが聽其他で暴行を働いた一味 衆三百余名の盛況を呈した。博徒の親分小野恒吉(四〇)警尚は平區裁判所からは二十一日城炭礦小野田礦飯飯頭(昨報午前十時高増檢事、和田書記、警務係は野田、橋本本治(三平署小野田署補等實地檢證のため(一九)同中島新一(二二)田崎甚吉(二八)中島新一(二二)の七名は主謀者として二十日午後平刑務所未決監に收容したが前記七名外数名の暴徒は或る者の使唆により炭礦會社側に忠勤振りをするとして暴行を演ずるに至つたものらしく、日本坑夫組合本部からは急報に接して聯合して来る二十三日(舊十二)てやうと之亦賣出しの開始を待

準備萬端を整へ 賣出しの二町目

當籤者は本紙で發表

川前村大字川前山下谷根本久部落葬儀組合員が集合したところ雄(二三)は昨年七月中旬所内に、かれは絶交してゐる所へある國有雜種地三十筆の拂下げ久雄等も會葬したところかれを平稅務署に出願したところ同は絶交してゐるから手傳ふ譯に所元村議大河原菊治(六〇)村議は行かぬと一問引揚げたのみか竹田熊吉(五〇)外五名は久雄が妻の實家と縁故關係から残り單獨で部落を無視し拂下げの出手傳つた組合員市松外数名を平稅務署に提出したところ同は絶交してゐるから手傳ふ譯に所元村議大河原菊治(六〇)村議は行かぬと一問引揚げたのみか竹田熊吉(五〇)外五名は久雄が妻の實家と縁故關係から残り單獨で部落を無視し拂下げの出手傳つた組合員市松外数名を平稅務署に提出したところ同は絶交してゐるから手傳ふ譯に

教員志望が多い 警高女生の志望

縣立磐城高等女學校では諒開中ため各商店から多數の委員が景のこゝろで音楽會及び學藝會等品引換所たる鶴屋旅館に集合し

品評會授與式

好間村農會主催で過般開催した梨園並に二毛作の品評會賞狀授與式は廿三日午後一時から好間第一校で舉行し終つて農學講習會を舉行する。

學級増加

礪城中學校では目下千百名の生徒を有し收容生徒の多い事縣下第一であるが来る新學期から更に一學級を増設する事になつた

部族民が擧つて 根本家と絶交

川前村大字川前山下谷根本久部落葬儀組合員が集合したところ雄(二三)は昨年七月中旬所内に、かれは絶交してゐる所へある國有雜種地三十筆の拂下げ久雄等も會葬したところかれを平稅務署に出願したところ同は絶交してゐるから手傳ふ譯に所元村議大河原菊治(六〇)村議は行かぬと一問引揚げたのみか竹田熊吉(五〇)外五名は久雄が妻の實家と縁故關係から残り單獨で部落を無視し拂下げの出手傳つた組合員市松外数名を平稅務署に提出したところ同は絶交してゐるから手傳ふ譯に

特等鑑

四丁目では二十一日から聯合福引大賣出しを開始したが、第一日目に江名町坂本峯吉氏は特等純金製福の神と白米一俵と引き當てた。

火防映畫 猛火と戦ふ

社會教育映畫研究所小田洋行方では平警察署並に平消防組の後援を受け二十三日から二日間平劇場に於て火防宣傳映畫「猛火と戦ふ」を上映する等であるがこの映畫は社會教育映畫研究所の製作にかゝり警視廳が推選した映畫で、人生最大の恐怖、火を題材とした壯快悲涙の教育劇として好評を博すであらうと

磐城建物成績

平町 磐城建物株式會社は不況の折柄なるに拘らず支配人井上貞次郎氏就任以來着々發展の域に入りつゝ、あり今期配當は年五分強で昨半下半期利益金四千二百九十二圓五錢は三百圓積立金三千五百圓、株主配當金三百圓、重役賞與金五百四十二圓五錢を総期繰越金に處分した。

看護婦表彰

平町一丁目鷹崎千代女史方看護婦、婦科病舎に腸チフス患者十一名の看護に依頼され懇切丁寧に看護に盡力し患者を全快せしめたので小名濱町長鈴木榮氏から金一封を添へ表彰された。

金庫を盗む

永野菓子店方店頭の雨戸をねじ開けて二十日午前四時頃強盗賊忍び入り現金五十餘圓入りの手提金庫を窃取した犯人あり平署で嚴探中である。

人の噂

▲客腹中風邪にやられ、て以來未だに和服姿で出勤してゐる磐城高等女學校長の櫻井文學士が醫師の勸告で目下尙禁酒中とあるので、「この寒さに飲まねば後には後がせん」として、最初は妙具合で腹の調節がとれなかつたが少し慣れると何でもありま

投票用紙

模擬平市會議員

このかた廿七年振りで醫者にかつた云ふ先生で萬一の事があれば例の古事記研究の博士論文がフイになる處だつたから無理はない。

平模擬市會市會議員得票

- 三十七票 櫻井清氏
- 三十三票 井上貞次郎氏
- 二十二票 吉村俊次郎氏
- 二十一票 鈴木昌雄氏
- 十九票 馬目雅治氏
- 十九票 關内正一氏
- 十四票 三森虎雄氏
- 十三票 綠川寅三郎氏
- 十二票 吉田寅之輔氏
- 十二票 諸橋守次氏
- 八票 諸橋元三郎氏
- 六票 諸橋正次氏
- 六票 中野康平氏
- 五票 鈴木武雄氏
- 四票 山崎清三氏
- 四票 鷹崎正見氏
- 三票 多田井笑次郎氏
- 三票 瀧澤俊平氏

買ひ良い店 一等當選紀念

景品付謝恩賣出し

一月二十日から二十六日迄七日間
 實用大人メリヤス 五十錢
 大人肉ジユパン 六十錢
 腹カケ、モモ引 十五錢
 婦人大人肉ジユパン 六十錢
 婦人大人毛ジユパン 一圓五十錢
 毛都腰巻 一圓五十錢

良品廉賣の 山家ヤメスリ店
 買ひ良い店 平町一丁目(電話六〇五)

家屋月賦賣却

平町七丁目死フキ二階建、間口五間二戸建一棟並に同平家十七坪五合二戸建二棟を左の方法により賣却す
 一、八百圓は契約と同時に入金現金は月七十圓宛四ヶ年間の月賦償還
 一、同家屋からは家賃のみで収入月七十圓を下らず(家賃を以て毎月仕拂以上の収入あり)
 一、詳細は磐城建物會社に御問合せ下さい
 一、地代も廉價裏に空地あり
 一、契約期限 昭和二年二月末日限り
 一、現金なれば安くも御相談に應ず

カキは一の井 料理はカキ

生活改善!!!

紋服・丸帯・袴・羽織・喪服
 かつぎ等衣類一切扱升

カキキキ
 御婚禮衣裳特に勉強・髪飾・ハコセコ・高莖類一切
 元費節約!!!

人買價高ギルフ
 升ヒ伺ニ第次報一御
 物立仕・着古・質荷茗
 店裳衣貸屋荷茗
 六一三電 一ジカルフ



松ヶ岡公園の冬の情景!!!
 静かに深みゆく冬の公園池畔に
 御來遊あれ

番六二二話電 畔池園公岡ヶ松

正礼堂

の製品を召し給え
 目下格安品豊富に
 取揃へ申候

◎新らしき柄ご安値
 白熱的大好評一實用冬セル
 ウールライン
 併新奇拔な
 伊勢崎錦仙模様
 結納物一式
 江戸襷丸帯小紋錦紗
 豊當に取揃へ申候

三井呉服店
 平町三丁目
 電話三十八番

平町病院 案内

腸胃 専門科
 十二指腸虫病
 淋病 婦人病
 痔門病 肛門病

毒核 専門科
 淋病 婦人病
 痔門病 肛門病

平町南村松病院
 電話七〇一

高久病院
 内科・外科・耳鼻咽喉科・花柳病科
 院長 高久忠
 平町電話一三五

大和田醫院
 小兒科・内科・皮膚花柳病科(血液検査)外科
 婦人科・耳鼻咽喉科
 特設動脈硬化症及中氣血脈検査
 診察料 無料
 診療主任 齋池田次郎
 田町

平實費病院
 (本局裏通電五五一)

原齒科醫院
 平町土橋通り
 電話三一番

赤心堂病院
 外科一般・婦人科
 耳鼻咽喉科
 志原博士 新妻由五郎
 日本醫學士 高橋眞
 田町電話四七五

吉田眼科醫院
 平町紺屋町
 電話六八番

耳鼻咽喉科
 大和田醫院
 電話一七〇番

共濟病院
 院長 寺本孝平
 病院長 實澤忠治
 平町電話六四一

内科
 院長 醫學博士 齋地泰助
 副院長 醫學士 松野松治

外科
 部長 醫學士 野田宏
 副部長 醫學士 松永球磨

衛生試驗所(物理化學)
 主任 醫學博士 齋藤泰助
 技師 和田宇市

藥劑局
 藥師 吉本孝平

原齒科醫院
 平町土橋通り
 電話三一番